

サッカー選手のギアを手入れして、万全の状態です。ピッチに送り出す、プロのスタッフをホベイロという。ヨーロッパではすでに浸透しているが、日本で採用しているのは、一握りのJチームだけだ。日本最古参のホベイロとして93年のJリーグ開幕以来、ヴェルディを支えているのが、東京VERDY1969の松浦紀典さんである。

松浦さんの仕事ぶりは実に繊細かつ綿密。作業はエアガンで泥や芝の汚れを飛ばすことから始まり、ステッチのほつれや接着の隙間に入った細かい芝生にまで気を配る。仕上がったシューズは、アッパーはもちろん、ソールに至るまで、新品のようにはピカピカだ。

また、特にケアするのが湿気と柔軟性。雨に濡れた時は、新聞紙をつめ、6時間に一度取り替えたりもするという。一方、市販の靴墨だと固くなるので、あるメーカーと松浦さんが開発したものを使用。これにより、シューズ本来の柔らかさを保ち、蹴る感覚もサポートしてい

選手以上に彼らの スパイクに詳しい男 「GEARのプロ・ホベイロを知る」

口モノ。

ホベイロの守備範囲はスパイクのみでなく、ユニフォームからアンダーウェアまで、選手が身に付けるものすべてだ。現在、約40人分の用具を管理しているそうだが、誰が何を使っているかすべて把握しているという。

会場によって、もちろんグラウンド状態は異なる。「試合の時は取替え式、固定式、その中間とすべて用意します。単にピッチの長さだけでなく、ちょっとしたことでコンディションは変わりますから」と言う松浦さんに「イレブンも全幅の信頼を置く。各選手の足の特徴は選手以上に理解していることで、契約メーカーから逆にアドバイスを求められることもしばしばあるということだ。

今後の目標は日本代表で活躍すること。松浦さんは、あのドームの時、都合で、帯同することができなかった。自分が行けば選手をブレイクに専念させられる。その思いは今も強い。